

平成24年(2012年)7月26日
山口県病虫害防除所

1 病虫害名 チャトゲコナジラミ *Aleurocanthus camelliae* Kanmiya and Kasai

2 作物名 チャ

3 特殊報の内容 新発生

4 発生経過

(1) 発生確認月日：平成24年4月28日

(2) 発生地域：岩国市、周南市、山口市

(3) 発生状況

周南市鹿野のチャ(庭木)でチャトゲコナジラミに酷似した成幼虫を多数確認した。神戸植物防疫所へ同定を依頼した結果、チャトゲコナジラミであると同定された。

5月上旬に県内のチャ生産地等を調査したところ、県東部を中心とした広域で本種の発生を確認した。

(4) 他県での発生状況

本種は平成16年に京都府のチャで初めて確認され、現在までに関東以西の22都府県で発生が確認されている。なお、本種は当初ミカントゲコナジラミのチャ系統として報告されてきたが、平成23年3月に新種として命名記載された。

5 本害虫の特徴

(1) 被害

成虫及び幼虫によって葉が吸汁加害される他、幼虫が排泄する甘露にすす病が発生する。中国などではチャの最重要害虫の1種とされている。

(2) 形態

ア 成虫はセミのような形をし、体長は雌が約1.3mm、雄は雌よりやや小さい。前翅は紫褐色で不整形の白斑があり、虫体は橙黄色であるが白粉で覆われているため灰色に見える。

イ 幼虫は葉裏に固着寄生し、体長は約0.2~1.3mm、光沢のある黒色のだ円形で周囲は白色ロウ物質で囲まれる。背面には多数の刺毛がある。

ウ 卵は長さ0.2mm、淡黄色の勾玉状で、基部には短い柄がある。

(3) 生態

成虫寿命は約2~4日、飛翔能力は高くないが、風に乗って長距離移動する。孵化した幼虫は葉裏に固着寄生し、すす病を誘発する甘露を肛門から排出する。年間3~4世代を繰り返し、春期の成虫発生は、一番茶新芽生育期とほぼ一致する。

(4) 寄主植物

チャの他に、サザンカ、サカキ、ヒサカキ、シキミ等である。

6 防除対策

(1) 耕種的防除

深刈りせん枝等で、発生園の葉を完全に除去する。せん除した枝葉は放置せず、埋設するなど適切に処理を行う。

(2) 薬剤防除

登録薬剤による防除が有効である。

マシン油乳剤による秋冬期の防除は一番茶生育期の発生密度を抑えるのに重要である。



図1 チャトゲコナジラミ成虫



図2 チャトゲコナジラミ幼虫



図3 チャトゲコナジラミの排泄物に発生したすす病（チャ）

表 チャのチャトゲコナジラミに登録のある薬剤

系統・種類	商品名	希釈倍数	使用時期	使用回数	散布液量
マシン油	ラビサンスプレー	75倍	10月～3月	-	200～400 リットル /10a
		100～150倍	5月～9月	-	
	トモノールS	100～150倍	5月～9月	-	
		50～100倍	10月～3月	-	
IGR剤	アプロード水和剤	1000倍	摘採14日前まで	2回以内	200～400 リットル /10a
IGR・殺ダニ剤	アプロードエースフロアブル	1000倍	摘採21日前まで	1回	
殺ダニ剤	ダニゲッターフロアブル	2000倍	摘採7日前まで	1回	
ネオニコチノイド系	ダントツ水溶剤	2000倍	摘採7日前まで	1回	
カーバメート系	ランネット45DF	1000倍	摘採21日前まで	2回以内	
その他	コルト顆粒水和剤	3000倍	摘採7日前まで	2回以内	
	ハチハチフロアブル	1000倍	摘採14日前まで	1回	
	ハチハチ乳剤	1000倍	摘採14日前まで	1回	
	コテツフロアブル	2000倍	摘採7日前まで	2回以内	
	ディアナSC	2500～5000倍	摘採7日前まで	1回	